



新1年生の安全な通学のために (3月12日)

明るい社会づくり運動静岡県裾野地区協議会が市役所を訪れ、482個の黄色い帽子を寄贈しました。寄贈は今回が44回目です。同会会長の林孝至さんは「子どもたちへの交通安全の願いと、すくすく育ててほしいという思いが込められています」と述べ、高村市長に目録を手渡しました。帽子は、入学手続きの日に見童に配布しました。

地区住民が新しい栄橋の開通を祝う (3月22日)

県道富士裾野線の栄橋の完成を祝い、地元の石脇区民の皆さんが開通式を行いました。石脇区長の植松由夫さんは「今までの橋は80年以上が経過し、大雨のときの黄瀬川の増水が心配でした。安心・安全な橋を造っていただき感謝しています」とあいさつしました。式典の後、石脇区の青年組織「石青会」が担ぐみこしを先頭に渡り初めを行いました。



準高地トレーニングをサポート (3月22日)

市民文化センターで準高地トレーニングサポーター養成講座が開催されました。陸上部の指導者など6人が参加。静岡大学教育学部教授の杉山康司さんから、スポーツトレーニングと体の関係性について講義を受けました。動脈中の酸素濃度や運動中の心拍数などを測定し、トレーニングの効果を検証する機器の使い方やデータの利活用について学びました。

聖火リレーのピンバッジを寄贈 (3月24日)

県内で開催される聖火リレーに向け、機運醸成に取り組むコカ・コーラボトラーズジャパン株式会社が市役所を訪れ、聖火リレーをイメージしたピンバッジ900個を市に寄贈しました。3月末から全国で開催される予定だった聖火リレーも一旦中止となってしまいましたが、高村市長は「大会が延期になっても、盛り上げていきます。機運醸成にピンバッジを活用させていただきます」とお礼を述べました。





市内4施設にヤクルト商品を寄贈 (3月26日)

東静岡ヤクルト販売(株)の従業員ら8人が市役所を訪れ、チャリティヤクルト目録贈呈式が行われました。チャリティヤクルトは昭和52年から始まった、チャリティ販売で得た売り上げから、ヤクルト商品を社会福祉施設へ寄贈する社会貢献活動です。今年も県東部151カ所、市内では4カ所の施設に1,125本(48,375円相当)が寄贈されました。

伊豆島田分署開署

(3月29日)

裾野消防署伊豆島田分署の開署式が行われました。出席者は約40人。災害の多様化や大規模化、住民ニーズの多様化に的確に対応し、裾野市・三島市・長泉町の市町境付近の消防力の向上を図ります。救急隊1隊、消防車と救急車の乗換運用隊1隊の、計2隊が「地域の安全」を守ります。

特派員：渡邊 英機・杉本 武満



ぬまづ茶を放課後児童室の児童へ (3月30日)

JAなんすんから、市内の各小学校放課後児童室へぬまづ茶が寄贈されました。お茶は、放課後児童室へ通っている児童に1人1袋配られます。緑茶には殺菌効果があるといわれているため、児童は、放課後児童室で、このお茶を飲むだけでなく、手洗いやうがいなどにも使います。

有害鳥獣による被害防止に向けて (4月1日)

鳥獣被害対策実施隊員の委嘱式を市役所で行いました。市長から地元猟友会員12人が委嘱、市職員3人が任命されました。任期は1年です。富士山、愛鷹山、箱根山に囲まれている当市では、シカやイノシシなどの野生動物による、農作物被害や生活環境被害が問題となっています。隊員は、有害鳥獣の捕獲活動やパトロール、被害調査などを務めます。

